

日本語依頼表現の丁寧さ

—授受表現「てくれる・てもらう形」「させてくれる・させてもらう形」を中心に—

呉先珠*

(e-mail : drama6952@yahoo.co.jp)

<목 차>

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1.はじめに | 3.3 「てもらう形」のアンケート結果及び考察 |
| 2. 先行研究 | 4.依頼の場に使われる「させてくれる形」「させてもらう形」 |
| 3. 依頼の場に使われる「てくれる形」「てもらう形」 | 4.1 「させてくれる形」のアンケート結果及び考察 |
| 3.1. 調査デザイン | 4.2 「させてもらう形」のアンケート結果及び考察 |
| 3.2. 「てくれる形」のアンケート結果及び考察 | 5. おわりに |

キーワード：依頼(request), 話し手(the speaker), 聞き手(the listener), 依頼内容と負担(the content and burden of request), 恩恵(benefits), 丁寧さの度合い(level of politeness)

1.はじめに

外国語教育の目的は学習言語を母語とする人との円滑なコミュニケーション活動にある。このような観点からすると、日本語学習者は日本語を母語とする人とコミュニケーションをとるために学習していると言えよう。しかし、敬語は日本人にとっても厄介なもので、ましてや外国語として日本語を学ぶ学習者にとっては最難関であることは言うまでもない。日本語の敬語は美化語、尊敬語、謙譲語Ⅰ、謙譲語Ⅱ、丁寧語に対する理解に加え、ウチとソトの関係といった日本語特有の敬語メカニズムに対する理解が求められ、それが学習者を悩ませる原因の一つとなる。

特に2年制大学の日本語学科及び日本語関連学科の場合、1年の秋学期の終わりから敬語を習うが、多くの学習者が日本語学習歴1年前後と短いため、理解に苦しんでいる様子が見られる。

* 培花女子大学, 兼任教授, 比較言語学

かがえる。また、適切な敬語判断をするための言語能力¹⁾があっても、それぞれの敬語表現がどれほどの丁寧さを有しているのかが判断できないため、言語能力が運用能力や戦略的能力に繋がりにくい。

本稿は依頼の場に用いられる敬語表現の中で、日本語学習歴の短い大学1、2年生が既学習文法と繋げやすい授受関係を含む「てくれる・てもらう形」「させてくれる・させてもらう形」を中心に、表現間の丁寧さの度合いとそれに対する話し手や聞き手の負担と利益を考察することで①言語能力を言語運用や戦略的能力に繋げる方法を探り、②その後の敬語表現学習に役立てたい。

2. 先行研究

まず敬語とは何か、平成19年日本文化庁・文化審議会が発表した敬語の指針(2007:7)によると、敬語はその場の人間関係や場の状況に対する気持ちの在り方を表現するものである。菊地(2010:17)は敬語を、同じ事柄を述べるのに、述べ方を変えることによって、敬意又は丁寧さをあらわす、そのための専用の表現だと述べている。つまり敬語はコミュニケーションの場における話し手の気持ちの表し方であり、場の状況によって聞き手や話題の人物を立てるための戦略であるといえる。草薙(2006:20)は日本語の敬語の種類を丁寧語と上位敬語に2分類し、さらに上位敬語を尊敬語、謙譲語、丁寧語に下位分類している。この3つの上位敬語は話し手が誰に対して敬意をしめすかということと、敬意を表現する手段として、話題になっている行為あるいは状態を表す語を特殊な表現にすることで、相手を「持ち上げたり」話し手自身が「へりくだったり」することと説明している。菊地(2010:30-31)は敬語を尊敬語、謙譲語Ⅰ、謙譲語Ⅱ、丁寧語、美化語に5分類しているが、尊敬語とは一般に話題の中で行為を行う人に対する敬意の表しであり、謙譲語は行為者側に視点を置き、相手を配慮する話し手の気配り・心掛けの言語手段といえる。一方、依頼の場に用いられる授受表現に関する研究は大きく、①「てくれる・てもらう」間の使用実態に関する研究、②授受表現のポライトネス²⁾に関する研究、③日本語母語話者と学

1) 高見沢(2004:44-45)では、コミュニケーション能力は、言語的な能力(=言語能力、competence)、運用能力(=言語運用、performance)、および戦略的な能力(交渉技術、strategy)から構成されると述べている。

2) Brown&Levinson(1987)は‘politeness’に関する理論として最も基本的で代表的なものと言えるが、日本語学では‘ポライトネス’あるいは‘丁寧さ’と訳され、円滑なコミュニケーションに必要な配慮や配慮的行動のような広い範囲で用いられている。生田(1997:67-68)によると人間には面子に係わる欲求があり、相互の人間関係の維持を望むならば、それを互いに脅かさないように行動(言語使用)しようとする。それがポライトネスであると定義している。

習者の比較研究の3つに分けられる。まず、①「てくれる・てもらう」間の使用実態に関する研究として、金殷模(2015:19)は、「てもらう」文の用法が決まる要因とその理由について考察しているが、「てもらう」文の用法は、動詞の性質や複文、副詞の共起、参与者の数、格表示の変化、恩恵行為者の性質による事象意味の移行との関係など様々な要因によって決まってくるものであるとしている。また、최명규(2009:128-30)は「恩恵の受け手」と「行為の主体」の一致・不一致と格助詞「に」の有無により考察している。②授受表現のポライトネスに関する研究として、森山(2008:26)は依頼と命令表現における敬語の体系を、普通体(ぞんざい体)「しろ:恩恵非付与」、「してくれ(恩恵付与)」、普通体(非ぞんざい体)「おやり:恩恵非付与」、「して:恩恵付与」、敬体(丁寧体)「しなさい、お～なさい:恩恵非付与」、「してください、お～ください:恩恵付与」、上級敬体(上級丁寧体)「*しなさいませ、お～なさいませ:恩恵非付与」、「して下さいませ、お～下さいませ:恩恵付与」に分けている。崔善喜・姜錫祐(2015:163)は、授受動詞を用いる「てください・お～下さい」「てもらう・いただく」を中心に命令文のポライトネスをLeechの丁寧さの原理と森山(2008)をもとに分類しているが、直接的命令なのか間接的命令なのか、また恩恵付与の有無により現代日本語の命令表現の体系を提示している。③日本語母語話者や学習者の授受表現使用における研究はとして、李讓珍(2016:260)は「させていただく」を中心に日本語母語話者100名と外国人日本語学習者53名の使用を比較研究しているが、外国人日本語学習者は日本語母語話者が「敬意・決まりきった言い方」と感じる文を違和感を感じたり、攻撃性・自己主張性と感じる時があるとしている。

以上のようにこれまで日本語授受表現は多方面で研究され、多くの成果を蓄積しているが、日本語学習歴の短い人にとっては、特に「てくれる形・てもらう形」の各表現がどれほどの丁寧さを有しているのか使い分けられないため、本稿は「てくれる形・てもらう形」の丁寧さに重点をおいて研究したい。

Leechは「丁寧さの原理」の下位原則として以下の6つの原則を設けているが、これらは次のように対をなして機能する傾向があると述べた。中でも「気配りの原則」が英語圏の社会において最も重要な種類の丁寧さであるとしている。

(I) 気配りの原理

- (a) 他者に対する負担を最小限にせよ。 (b) 他者に対する利益を最大限にせよ。

(II) 寛大性の原理

- (a) 自己に対する利益を最小限にせよ。 (b) 自己に対する負担を最大限にせよ。

(III) 是認の原理

(a)他者の非難を最小限にせよ。

(b)他者に賞賛を最大限にせよ。

(IV)謙遜の原理

(a)自己の賞賛を最小限にせよ。

(b)自己の非難を最大限にせよ。

(v)含意の原理

(a)自己と他者との意見の違いを最小限にせよ。(b)自己と他者との含意を最大限にせよ。

(VI)共感の原理

(a)自己と他者との反感を最小限にせよ。(b)自己と他者との共感を最大限にせよ。

(邦訳：池上・河上 1987：190～191)

本稿で取り上げる依頼の場を用いられる敬語の丁寧さは、話し手が依頼を通して聞き手に何か行為的、あるいは精神的負担を働きかけ、利益や恩恵を得るための言語的戦略と定義している。そしてそれは Leech の「丁寧さの原理」の中で「気配りの原理」に当てはまり、最も密接であると思われる。

3. 依頼の場を用いられる「てくれる形」「てもらう形」

3. 1 調査デザイン

アンケート参加者は福岡県・福岡市在住の20代～70代の女性20名である。アンケート調査対象者を女性に限定した理由は一般に男性より女性の方が言葉づかいに敏感であると言われていることから敬語に於いても男性より丁寧な言葉づかいをしていると思われるからである³⁾。調査対象者の職業は大学院生1名、主婦8名、会社員8名、パート社員3名で、年齢は20代が1名、30代が1名、40代が9名、50代が5名、60代が3名、70代が1名である。

調査時期は2018年7月～8月、調査方法は「てくれる形」「てもらう形」「させてくれる形」「させてもらう形」の用例を提示し、最も丁寧さの度合いが低いと思われる用例から最も丁寧さの度合いが高いと思われる用例まで丁寧さ順に①から⑥、①から⑩のように番号を付けてもらい、必要に応じて口頭で質疑応答を行った。

この際、母語話者の判断によって不自然な用例、又はあまり見聞きしていない用例に関しては番号を付けなくてもよいとし、また母語話者の判断によって同じ程度の丁寧さを有してい

3) 荻野(1983)は、東京都文京区の根津・西片地区の住民488名を対象に、聞き手に対してどうい敬語表現が使われるかを調べ、それぞれの待遇レベルを図で示した。その結果、①女性は男性よりも丁寧なことばづかいをする、②年齢が高いほど丁寧なことばづかいをする、③学歴が高い人ほど聞き手によってことばを使い分けると述べている。今回は荻野(1983)を参考し、調査対象者を女性に限定しているが、これから男性の敬語使用も調査し、両方を比較研究していくつもりである。

と判断される用例に関しては複数応答も可能にした。

調査に用いられた表現は基本ビジネス日本語教材から抜粋している。ただし、今回研究対象の「てくれる形」「てもらう形」「させてくれる形」「させてもらう形」のアンケート文全体を通してのバランスを考え、筆者が手直ししている4)。

3. 2 「てくれる形」のアンケート結果及び考察

「てくれる形」の丁寧さに関するアンケート調査の結果は以下の通りである。

＜表1. 「てくれる形」の丁寧さに関するアンケート調査の結果＞

＜てくれる形＞	番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		20代	50代	40代	50代	50代	40代	40代	60代	70代	60代
明日電話してくれ。	①	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
明日電話してくれる？	②	2	3	3	3	2	2	2	2	2	2
明日電話してくれない？	③	3	2	2	2	3	3	3	3	3	3
明日電話してください。	④	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
明日電話してくださいませんか？	⑤	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
明日電話してくださいませんか？	⑥	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
＜てくれる形＞	番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
		60代	40代	40代	50代	30代	40代	40代	40代	40代	50代
明日電話してくれ。	①	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
明日電話してくれる？	②	2	3	3	2	3	2	2	3	2	2
明日電話してくれない？	③	3	2	3	3	2	3	3	2	3	3
明日電話してください。	④	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
明日電話してくださいませんか？	⑤	5	5	5	6	5	5	5	5	5	5
明日電話してくださいませんか？	⑥	6	6	6	5	6	6	6	6	6	6

- 4) 例えば、「電話してもらおう」、「電話させてもらおう」、「電話させてくれ」のような一部用例は日常生活ではあまり用いられることないが、①文法上あり得る形式である、②アンケート文全体のバランスを考慮に入れると「電話してくれ」と同レベルの丁寧さを有する用例が必要であったため筆者が作った用例である。また、「電話してくださいませんか」や「電話していただけますでしょうか」のような「～ませんでしょうか」の場合、二重敬語の恐れがあるが、現代日本語書き言葉均衡コーパスの「小納言」で「教えていただけますでしょうか」などの用例が81件ヒットし、またビジネス日本語において「～ませんでしょうか」が丁寧な表現であると習った日本語学習者が間違っ使用恐れがあると判断し、依頼の場に用いられる表現として不適切であることを日本語母語話者のアンケートを通して提示したく、筆者が作った用例である。

「てくれる形」は大方<表 1>の提示順番通りに丁寧さが高くなる傾向がみられたが、「②明日電話してくれる?」と「③明日電話してくれない?」に限っては「②明日電話してくれる?」の方が丁寧だと答えた人が 7 人(35%)、「③明日電話してくれない?」の方が丁寧だと答えた人が 13 人(65%)であった。このような結果から、③番の方が丁寧だと答えた人は、依頼の場という状況下では肯定形より否定形を用いた方が押し付けがましさを緩和し、相手に対する配慮の気持ちが表せると判断したのであると思われる。

年齢別には 40 代女性 9 人のうち 4 人、50 代の女性 5 人のうち 2、30 代女性 1 人が「②明日電話してくれる?」の方が「③明日電話してくれない?」より丁寧だと答えている。

依頼の場に用いられる「てくれる形」は「依頼者＝話し手、行為の主体＝聞き手、行為の決定者＝聞き手、恩恵の向かう先＝話し手」であるため、聞き手を立てながら直接的に恩恵(利益)を求める意が窺え、出来事から恩恵を受けることを直接表したい場合は「てくれる形」を用いた方がいいと考えられる⁵⁾。

<表 1>のアンケート調査の結果を丁寧さ順に並べた上で、話し手の負担と利益、聞き手の負担、文の間接度を纏めると以下の<図 1>の通りになる。

「てくれる形」	話し手の負担	話し手の利益	聞き手の負担	間接度	丁寧さ
①明日電話してくれ。	低	低	高	低	低
②明日電話してくれる?					
③明日電話してくれない?					
④明日電話してください。					
⑤明日電話してくださいませんか?					
⑥明日電話してくださいませんか?	高	高	低	高	高

<図 1> 「てくれる形」の依頼に対する負担と利益、丁寧さ>

<図 1>では話し手の負担と聞き手の負担は反比例している。依頼という状況から話し手の目的は、押し付けがましさを緩和して聞き手に良い印象を与え、話し手の依頼・要請を引き受けてもらえるであろう。そのために聞き手を配慮して、依頼に対する聞き手の負担が低くなる

5) 庵功雄他(2001:121)は「てもらう/てくれる」に対し、恩恵的に捉えていることを積極的に表したい場合、「てもらう」文は動作主に依頼して動作を行ってもらうという使役的な意味を持っている一方、「てくれる」文には使役の意味はない、出来事から恩恵的な影響を受けることを表す場合「てくれる」文を用いた方が適切な場合があると述べている。

ように工夫する必要がある。その結果、言語構成の過程で否定・可能・推量・終助詞「か」などが介在して間接的な文になるため、言語構成上の話し手の負担は高くなるのである。一方、聞き手の立場からは依頼が用例①のように命令形に近い文になるほど目上の人や上司、つまりビジネス上において自分より身分の高い人からの依頼である可能性が高い。そのため、依頼に対する負担も高いと言え、依頼が丁寧になればなるほど両者の社会的力関係において聞き手が優位にある可能性が高く、依頼に対する聞き手の負担は低くなると言える。

つまり、話し手は依頼を成功させるための戦略的能力は、聞き手を配慮し、聞き手の負担が少ないように、丁寧で間接的な表現を用いるのであり、結果的に聞き手に良い印象を与え、依頼を引き受けてもらえる可能性が高くなるため、話し手の利益も高くなるのである。

3. 3 「てもらう形」のアンケート結果及び考察

さて「てもらう形」の丁寧さに関するアンケート調査の結果は以下のとおりである。

＜表 2. 「てもらう形」の丁寧さに関するアンケート調査の結果＞

<てもらう形>	番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		20代	50代	40代	50代	50代	40代	40代	60代	70代	60代
明日電話してもらおう。	①	1		1	1	1	1	1	1	1	1
明日電話してもらえる？	②	2	3	3	3	2	2	2	2	2	2
明日電話してもらえない？	③	3	2	2	2	3	3	3	3	3	3
明日電話してもらえないですか？	④	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
明日電話してもらえませんか？	⑤	5	5	5	5	5	6	5	5	5	5
明日電話していただけますか？	⑥	6	6	7	6	6	7	6	6	6	6
明日電話していただけないですか？	⑦	7	7	6	7	7	5	7	7	7	7
明日電話していただけないでしょうか？	⑧	9	7	9	9	9	8	8	9	8	8
明日電話していただけませんか？	⑨	8	9	8	8	8	9	9	8	9	9
明日電話していただけませんでしょうか？	⑩	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
<てもらう形>	番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
		60代	40代	40代	50代	30代	40代	40代	40代	40代	50代
明日電話してもらおう。	①	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
明日電話してもらえる？	②	2	3	3	2	3	2	2	3	2	3
明日電話してもらえない？	③	3	2	3	3	2	3	3	2	3	2
明日電話してもらえないですか？	④	4	4	5	4	4	4	5	4	4	4
明日電話してもらえませんか？	⑤	5	5	5	7	5	5	4	5	5	5
明日電話していただけますか？	⑥	6	7	7	6	7	6	6	6	6	7
明日電話していただけないです	⑦	7	6	6	5	6	7	7	8	7	6

か？											
明日電話していただけないでしょうか？	⑧	8	10	9	9	8	8	9	9	9	8
明日電話していただけませんか？	⑨	9	8	8	10	9	9	8	7	8	9
明日電話していただけないでしょうか？	⑩	10	9	10	8	10	10	10	10	10	10

「てもらう形」においても「②明日電話してもらえる？」と「③明日電話してもらえない？」のうち、②番の方が丁寧だと答えた人が7人(35%)、③番の方が丁寧だと答えた人が12人(60%)であった。また両方とも同じくらいの丁寧さを有りすると答えた人が1人いた。年齢別には40代9人のうち4人が、50代5人のうち3人が、30代1人が「②明日電話してもらえる？」の方が「③明日電話してもらえない？」より丁寧だと答えた。

「⑥電話していただけますか」と「⑦電話していただけないですか」の丁寧さの順番に対して⑥番の方が丁寧だと答えた人は6人(30%)で、⑦番の方が丁寧だと答えた人が12人(60%)と意見が分かれた。年齢別には40代9人のうち4人、30代1人が「⑥電話していただけますか」の方が「⑦電話していただけないですか」より丁寧だと答えた。

⑧番と⑨番も丁寧さに対する意見が分かれたが、「⑧明日電話していただけないでしょうか？」の方が丁寧だと答えた人は10人(50%)で、「⑨明日電話していただけませんか？」の方が丁寧だと答えた人は9人(45%)であったが、上記表①から⑩の中で、「⑧明日電話していただけないでしょうか？」が最も丁寧だという意見や「⑨明日電話していただけませんか？」の方が最も丁寧だという意見もあった。

年齢別には40代9人のうち5人、50代5人のうち3人、30代1人、20代1人が「⑧明日電話していただけないでしょうか？」の方が「⑨明日電話していただけませんか？」より丁寧だと答え、広い年齢代で「⑧明日電話していただけないでしょうか？」がより丁寧だと答えていたことが分かった。

「⑧明日電話していただけないでしょうか？」と「⑨明日電話していただけませんか？」の丁寧さについて日本語母語話者の各年齢間で意見の違いが発生しているが、「⑧明日電話していただけないでしょうか？」をより丁寧だと答えた人は、文末に推量・想像する意を表す助動詞「でしょう⁶⁾」が接続し、話し手の依頼・要請をさらに間接的に表すことが

6) 国語大辞典(1993)は、「でしょう」を①一つの事柄を推量・想像する意を表す。推量の助動詞「だろう」の丁寧体。丁寧の助動詞「です」の未然形に推量の助動詞「う」の下接したものであるが、その接続は「です」より広く、独立的に一つの助動詞と認めることができると記述している。また、国語大辞典(1978)は、①「ます」と同じ程度の丁寧な文体に使い、動詞・形容詞・形容動詞・助動詞について、それらの語の表す事態についての話し手の推量・疑問などの気持ちを表す。②体言について、断定+推量または疑問などの意、あるいはやわらかい調子の断定を、丁寧の意とともに表す。③相手に対する念押し、または同意を求める気持ちなどを、丁寧

できることからより丁寧さの度合いが高いと認識するに至ったとみられる。反対に「⑨明日電話していただけますか？」の方が丁寧さの度合いが高いと答えた人は、「でしょう」が丁寧の意を含んだやわらかい断定、又は強調の意があることから、⑧番が⑨番より丁寧さの度合いが低いと判断したものと思われる。

一方、「もらう」の場合、「依頼者＝話し手、(表現上)行為の主体＝話し手、行為の決定者＝聞き手、恩恵の向かう先＝話し手」と、実際の行為の主体は聞き手であっても表現上の行為の主体が話し手であるかのように表すことができ、「くれる」より間接的恩恵の意が認められ、それが「いただく」にも引き継がれると思われる。さらに依頼の場において可能・否定・推量・終助詞「か」を重ねて間接的にすることで押し付けがましさを緩和するなど聞き手を配慮することにより、聞き手の依頼に対する負担をも最小限にすることができると思われる。

＜表 2. 「てもらう形」の丁寧さに関するアンケート調査の結果＞から、今回アンケート調査対象者は「～ませんか」より「～ないでしょうか」の方が丁寧だと答えた人が多かった。その結果を踏まえて、話し手の負担と利益、聞き手の負担、文の間接度、丁寧さを「図 2」の通り纏めることができる。

「てもらう形」	話し手の負担		話し手の利益		聞き手の負担		間接度	丁寧さ
①明日電話してもらおう。	低		低		高		低	低
②明日電話してもらえる？								
③明日電話してもらえない？								
④明日電話してもらえないですか？								
⑤明日電話してもらえませんか？								
⑥明日電話していただけますか？								
⑦明日電話していただけないですか？								
⑧明日電話していただけますか？								
⑨明日電話していただけないでしょうか？								
⑩明日電話していただけないでしょうか？	↓高		↓高		↓低		↓高	↓高

＜図 2. 「てもらう形」の依頼に対する負担と利益、丁寧さ＞

＜図 2＞の通り、「①明日電話してもらおう」のように命令形に近い表現になると両者の社会的力関係により話し手の負担は低いが聞き手の負担は高くなる。一方で聞き手に対する

の意とともに表す。④丁寧の意を含んだ強調・反語などの意を表すことがあると説明している。

る配慮を表すため、文が可能・否定・推量・終助詞「か」を介在し言語構成上複雑になると文生成に伴う話し手の負担は大きくなる反面、文は間接的、かつ丁寧になるため、聞き手の負担は低くなることが分かる。

4. 依頼の場に応えられる「させてくれる形」「させてもらう形」

「させてくれる形」「させてもらう形」は「てくれる形」「てもらう形」に使役の「させる」が介在し、話し手の行為に対する聞き手の許可・同意を求める表現として用いられている。これらは授受関係における日本語特有の婉曲的な依頼表現である故、言語能力があっても学習者が自らこれら表現を用いて文を作り出すのは非常に難しい。実際ビジネス日本語クラスで行ったアンケート調査もこれを裏付けるものであった。2 年生の 1 学期授業で「させてくれる形」「させてもらう形」の授業後、2 クラスの学習者 42 名を対象に「今日は早く帰りたいです」という文を「させてもらう形」を用いて直させたが、42 名のうち不正解が 16 名で約 38% を占めていた⁷⁾。このような結果は、言語能力が言語運用や戦略的能力に繋がっていないことを裏付けるものであり、学習者にとっては行為の主体(行為者)に対する把握が難しいようであったため、授受関係を行為の主体と恩恵の授受の面から再度理解させる必要があった。

4. 1 「させてくれる形」のアンケート結果及び考察

「させてくれる形」の丁寧さに関するアンケート調査の結果は以下の通りであった。

＜表 3. 「させてくれる形」の丁寧さに関するアンケート調査の結果＞

＜させてくれる形＞	番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		20代	50代	40代	50代	50代	40代	40代	60代	70代	60代
明日電話させてくれ。	①	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
明日電話させてくれない？	②	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
明日電話させてください。	③	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3
明日電話させてくださいませんか？	④	4	4	4	5	4	4	4	4	4	4
明日電話させてくださいませんか？	⑤	5	5	5	3	5	5	5	5	5	5
＜させてくれる形＞	番	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20

7) 学習者の不正解の類型をみると、「お帰らせていただきたいです」のように美化語「お」を付けた人が 8 名、答えを書いていない人が 5 名、「お帰りになりたいです」のように「お+ます形+になる」の尊敬形を使って直した人が 2 名、その他 1 名であった。

	号	60代	40代	40代	50代	30代	40代	40代	40代	40代	50代
明日電話させてくれ。	①	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
明日電話させてくれない？	②	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
明日電話させてください。	③	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
明日電話させてくださいませんか？	④	4	5	4	5	4	4	4	4	4	4
明日電話させてくださいませんか？ うか？	⑤	5	4	5	4	5		5	5	5	5

上記<表3>のように殆どの参加者がアンケートの提示順に丁寧さの度合いが高くなると答えた。ただし、40代の女性2人のうち1人は「⑤明日電話させてくださいませんか？」の場合、日常生活ではあまり使われないとして番号をつけず、もう1人も同じ理由で「④明日電話させてくださいませんか？」より丁寧さの度合いが低いと答えた。50代女性からは「③明日電話させてください。」や「④明日電話させてくださいませんか？」より丁寧さの度合いが低い上に「ふざけているかわざとらしい」という意見もあった。

前述したように、「させてくれる形」「させてもらう形」の「させる」は使役、つまり他者に何か行動を働き掛けるという意がある。また、この場合の「くれる形」「もらう形」は行動の働きかけの主体が他者から話し手の方に移動することを表すため、結果的に「させてくれる形」「させてもらう形」には聞き手側の働きかけにより話し手の行動が誘発されるものであるかのように見せかける効果がある。そのため、「させてくれる形」「させてもらう形」を用いる際の話し手の戦略的能力は、話し手の行動に対する許可・同意を聞き手に求める際に、依頼に対する聞き手の負担を減らす上、話し手の行為が話し手はもちろん聞き手においても利益になるもののように表現することにある。

<表3.「させてくれる形」の丁寧さに関するアンケート調査の結果>を踏まえて、話し手の負担と利益、聞き手の負担と利益、文の間接度、丁寧さを纏めると「図3」の通りになる。

「させてくれる形」	話し手の負担	話し手の利益	聞き手の負担	聞き手の利益	間接度	丁寧さ
①明日電話させてくれ。	低	低	高	低	低	低
②明日電話させてくれない？						
③明日電話させてください。						
④明日電話させてくださいませんか？						
⑤明日電話させてくださいませんか？ うか？	高	高	低	高	高	高

<図3.「させてくれる形」の依頼に対する負担と利益、丁寧さ>

＜図3＞から分かるように話し手の負担と聞き手の負担は反比例している。しかし、聞き手に対する配慮を表すために否定・可能・推量・終助詞「か」などが介在し依頼文が間接的、かつ丁寧さの度合いが高くなるほど、話し手の負担は高くなるが聞き手の負担は低くなる。また、使役の「させる」を介在することで話し手の行動が話し手自身はもちろん聞き手にとっても利益であるように表現することができることが3章で取り上げた「てくれる形・てもらう形」との違いであると言える。

4. 2 「させてもらう形」のアンケート結果及び考察

＜表4＞は「させてもらう形」の丁寧さに関するアンケート調査の結果である。

＜表4. 「させてもらう形」の丁寧さに関するアンケート調査の結果＞

＜させてもらう形＞	番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		20代	50代	40代	50代	50代	40代	40代	60代	70代	60代
明日電話させてもらおう。	①	1		1	1	1	1	1	1	1	1
明日電話させてもらえる？	②	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
明日電話させていただける？	③	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
明日電話させていただけないですか？	④	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
明日電話させていただけないでしょうか？	⑤	6	5	6	5	6	5	6	6	5	5
明日電話させていただけませんか？	⑥	5	6	5	6	5	6	5	5	6	6
明日電話させていただけませんでしょうか？	⑦	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
＜させてもらう形＞	番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
		60代	40代	40代	50代	30代	40代	40代	40代	40代	50代
明日電話させてもらおう。	①	1	1	1	1	1		1	1	1	1
明日電話させてもらえる？	②	2	3	2	2	2	4	2	2	2	2
明日電話させていただける？	③	3	2	3	3	3		3	3	3	3
明日電話させていただけないですか？	④	4	4	4	4	4	5	4	4	4	4
明日電話させていただけないでしょうか？	⑤	5	7	6	6	5		6	6	6	6
明日電話させていただけませんか？	⑥	6	5	5	7	6	6	5	5	5	5
明日電話させていただけませんでしょうか？	⑦	7	6	7	5	7		7	7	7	7

「させてもらう形」の丁寧さも大方提示順であったが、「⑤明日電話させていただけないでしょうか？」と「⑥明日電話させていただけませんか？」のうち、⑤番の方が丁寧だと

答えた人は11人(55%)で、⑥番の方が丁寧だと答えた人は8人(40%)であった。年齢別には20代1人、40代6人、50代3人、60代1人と半分以上のアンケート参加者が「⑤明日電話させていただけないでしょうか？」の方が「⑥明日電話させていただきませんか？」より丁寧だと答えた。

以上から⑤番の方がより丁寧だと答えた人は文末に推量・想像する意を表す助動詞「～でしょう」が接続し、話し手の依頼・要請をさらに間接的に表すことができることから丁寧さの度合いが高いと認識するに至ったとみられ、反対に⑥の方が丁寧さの度合いが高いと答えた人は、「～でしょう」が丁寧の意を含んだやわらかい断定の意を表すことができることから、相手に押し付けがましさを与えない⑥番の方がより丁寧さの度合いが高いと判断したと思われる。

一方、上記表①から⑦のうち、「⑤明日電話させていただけないでしょうか？」が一番丁寧だと答えた人や「⑥明日電話させていただきませんか？」の方が一番丁寧だと答えた人もいた。その理由として「⑩明日電話させていただきませんか？」の否定形「明日電話させていただきません」の後に「～でしょう」が付く場合、二重敬語の恐れがあり、これを用いることを憚る傾向があり、「馴染まない、使ったことがない」と答えたと思われる。また、「①明日電話させてもらおう」の場合、日常会話ではあまり使うことがないとの理由で番号を付けていない人も2人いた。

庵功雄他(2001:134)によると「させてやる、させてくれる、させてもらう」はXがしようとしていること(または実際にしていること)をYが許容するという出来事を恩恵的に表し、聞き手の許容を前提とした表現形式である「させてもらう」という形をとることで謙譲の意味、つまり動作の主体以外の人物を高めるという待遇的配慮を表していると述べている。

加えて本稿では、例えば「釜山に行ってもらいます/いただきます」から分かるように「もらう・いただく」はそれ自体使役の意味を持っているとみている。それらに使役の「させる」が加わった「させてもらう・いただく」の形をとることで「させてくれる」と比べて一層相手の負担を減らして間接的に相手の許可・同意を求めることができ、より「気配りの原理」の条件に適した表現になると考える。

さて、<表4.「させてもらう形」の丁寧さに関するアンケート調査の結果>を踏まえて、話し手の負担と利益、聞き手の負担と利益、文の間接度、丁寧さを纏めると「図4」の通りになる。

「させてもらう形」	話し手の負担	話し手の利益	聞き手の負担	聞き手の利益	間接度	丁寧さ
①明日電話させてもらおう。	低	低	高	低	低	低
②明日電話させてもらえる？						
③明日電話させていただける？						
④明日電話させていただけないですか？						
⑤明日電話させていただきませんか？						
⑥明日電話させていただけないでしょうか？						
⑦明日電話させていただきませんか？	高	高	低	高	高	高

＜図 4. 「させてもらう形」の依頼に対する負担と利益、丁寧さ＞

日本語母語話者のアンケート結果を踏まえて「⑥明日電話させていただきませんか」と「⑤明日電話させていただけないでしょうか」の丁寧さの順番を替えて提示した。

＜図 4＞から、「させてもらう形」の戦略的能力は、行動の主体を表面上代え(聞き手から話し手に)、話し手の行動が聞き手の働き掛けにより誘発されたものであるかのように表現することである。そうすることで聞き手の負担を減らすと同時に話し手の行動が話し手自身はもちろん聞き手にも利益になるように表現することにあると言えよう。結果的に上記＜図 4＞の通り、依頼が命令形に近くなるほど話し手の負担は低く、聞き手の負担は高くなる。一方聞き手への配慮を表すために依頼が丁寧、かつ間接的になるほど言語生成上の話し手の負担は高くなるが、聞き手の負担は低く、聞き手の利益も高くなり、依頼成功の可能性が高くなるため、話し手の利益も高くなることが分かる。

5. おわりに

本稿では依頼の場面に用いられる敬語表現のうち、依頼の場に用いられる「てくれる・てもらう形」「させてくれる・させてもらう形」を中心に日本語母語話者 20 人を対象にアンケート調査を行った。その結果、

①依頼の場に用いられる「てくれる形」の「くれる」は「依頼者＝話し手、行為の主体＝聞き手、行為の決定者＝聞き手、恩恵の向かう先＝話し手」であるため、聞き手を

立てながら直接恩恵を求めるとの意図が窺える。

②「てもらう形」の場合、「依頼者＝話し手、(表現上)行為の主体＝話し手、行為の決定者＝聞き手、恩恵の向かう先＝話し手」と、実際の行為の主体は聞き手であっても表現上行為の主体が話し手であるように表現することができる。それが聞き手への配慮と繋がり、「くれる」より間接的恩恵の意が認められる。

③「させてくれる形・させてもらう形」には聞き手側の働きかけにより話し手の行動が誘発されるものであるかのように表現することができる。そのため、「させてくれる形・させてもらう形」を用いる際の話し手の戦略的能力は、話し手が行うであろう行動に対する聞き手の負担を減らすと同時に話し手の行為が話し手自身はもちろん聞き手にとっても利益になるもののように表現することにある。

④依頼文が否定・可能・推量・使役・終助詞「か」を介在して間接的、かつ丁寧さの度合いが高くなるほど文構成上の話し手の負担は高くなるが、それが聞き手を配慮し、立てることにつながるため聞き手の負担は低くなる。また、文が丁寧、間接的になるほど依頼の成功確率も高くなるため話し手の利益も高くなると言える。

今回は依頼の場で用いられる授受表現の中で「てくれる・てもらう形」「させてくれる・させてもらう形」を中心に日本語母語話者20名を対象に各表現間の丁寧さの度合いを調べた。しかし、アンケート対象者が全員女性であり、地域も福岡に限定していたため、今後アンケート対象者数を増やして性別、年齢別、地域別の傾向を調べ、研究を拡大していくつもりである。

【参考文献】

- 生田少子(1997)「ボライトネスの理論」『月刊言語』6月号 vol.26、大修館書店,pp.66-71.
 荻野綱男(1983)「敬語使用から見た聞き手の位置づけの多様性」『国語学』132,pp.134-124.
 庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘(2001)『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク,pp.136-138.
 菊地康人(2010)『敬語再入門』,講談社 pp.30-31.
 金田一春彦・池田弥三郎編(1993)『学研国語大辞典』学研研究社,pp.1330.
 草薙裕.(2006)『敬語ネイティブになろう』くろしお出版社,pp.26-64.
 崔善喜・姜錫祐(2015)「授受動詞を用いた命令文とボライトネス」『日本語学研究』44 輯, 東北アジア文化学会,pp.151-165.
 高見沢孟(2004)『新・はじめての日本語教育 2』, アルク
 橋元良明(2001)「授受表現の語用論」『言語』30-5,大修館書店,pp.46-51
 文化審議会国語分科会(2007)「敬語の指針(答申)」, pp.1-70.

- 森山卓郎(2008), 「命令表現をめぐる敬語の体系」 『日本語学』 27-7, 明治書院, pp.18-26.
- Leech, G.N. (1983) "Principles of Pragmatics(池上嘉彦・河上誓作訳 1987 「語用論」)". 紀伊国屋書店, pp.190-191.
- 金殷模(2015) 「てもらう」文の用法決定に関わる要因」 『日本語学研究』 44, 韓国日本語学会, pp.3-21.
- 李讓珍(2016) 「「させていただく」の拡大用法の使用実態についてー日本語母語話者と外国人日本語学習者の比較を通じてー」 『日本文化研究』 第59輯, 동아시아일본학회, pp.241-264.
- 최병규(2009) 「일본어 수수표현의 사용양상에 관한 분석Ⅱ- <~てくれる> <~てもらう> 문을 중심으로-」 『東洋学』 第41輯, 단국대학교 동양학연구소, pp.127-152.
- (参考資料)
- 가네코 히로유키(2016) 「상황별로 배우는 일본어 경어」, 시사일본어사
- 메구로 나옴이・김옥희・하야시 요코(2014) 『New 스타일 비즈니스일본어1, 2』, 동양북스
- 강명호(2015) 『관광비즈니스일본어』, 大旺社

논문 투고 일자 : 2018. 10. 14.
논문 심사 일자 : 2018. 11. 07.
게재 확정 일자 : 2018. 11. 09.

 <要旨>

日本語依頼表現の丁寧さ

—授受表現「てくれる・てもらう形」「させてくれる・させてもらう形」を中心に—

吳先珠

本稿では依頼の場面に用いられる敬語表現うち、「てくれる・てもらう形」「させてくれる・させてもらう形」を中心に日本語母語話者20人を対象にアンケートを行った。その結果、①依頼の場に用いられる「てくれる形」の「くれる」は「依頼者＝話し手、行為の主体＝聞き手、行為の決定者＝聞き手、恩恵の向かう先＝話し手」であるため、聞き手を立てながら直接恩恵を求めるとの意図が窺える。

②「もらう」の場合、「依頼者＝話し手、(表現上)行為の主体＝話し手、行為の決定者＝聞き手、恩恵の向かう先＝話し手」と、実際の行為の主体は聞き手であっても表現上行為の主体が話し手であるように表現することができ、「くれる」より間接的恩恵の意が認められる。③「させてくれる形・させてもらう形」を用いる際の話し手の戦略的能力は、話し手が行うであろう行動に対する聞き手の負担を減らすと同時に話し手の行為が自身はもちろん聞き手にとっても利益になるもののように表現することにある。④依頼文が否定・可能・推量・使役・終助詞「か」を介在して間接的、かつ丁寧になるほど文構成上の話し手の負担は高くなるが、それが聞き手を配慮し、立てることにつながるため聞き手の負担は低くなる。結果的に依頼を引き受けてもらうという話し手の利益も高くなると言える。

politeness of request expression

—Focusing on The giving and receiving expression 「てくれる・てもらう形」
「させてくれる・させてもらう形」—

Oh, Sun-Ju

This paper did a survey for Japanese mother tongue speakers, focusing on the 「てくれる・てもらう形」「させてくれる・させてもらう形」 among the honorific expressions used for the request. As a result,

①The intention of speaker who respected the listener and expressed the request of direct benefit was shown on the 「てくれる形」 used for the request. ②「もらう」 can be expressed such that the subject of ostensible behavior is like speaker, even though the subject of real behavior is listener, therefore it shows the intention for more indirect benefit than 「くれる」. ③When using 「させてくれる形・させてもらう形」, the speaker's strategy can decrease the burden of listener for the behavior which speaker will perform, and express that speaker's behavior can be beneficial not only for speaker but also for listener. ④When adding denial, possibility, passiveness and final particles 「か」 to the request expressions and making it more indirect and polite, even though the burden of speaker on the sentence organization becomes higher, this will lead to the consideration for listener therefore the burden of listener will become lower. As a result, the possibility of request success, which will cause the benefit of speaker, will become higher.